

## 加齢男性性腺機能低下症候群に対する アンドロゲン補充療法後維持療法としての 漢方療法の効果

富山大学大学院医学薬学研究部 腎泌尿器科学講座

○渡部 明彦、飯田 裕朗、森井 章裕  
小宮 颯、布施 秀樹

【背景・目的】アンドロゲン補充療法（ART）は加齢男性性腺機能低下症候群（LOH 症候群）における諸症状に対して有効である。ART 施行後中止した場合においても改善した症状は数年来維持されることも報告されているが、再発する場合も少なくない。ART 中止後維持療法としての漢方製剤投与の効果について検討した。

【方法】対象は ART 後に漢方製剤による維持療法を希望した LOH 症候群 11 例（61.2 ± 4.02 歳）。ART にはエナント酸テストステロンを用い、125mg または 250mg 筋注投与を 2 ~ 3 週ごとに 3 ~ 6 ヶ月間施行。ART 前後、ART 中止 3 ~ 6 ヶ月後で Heinemann らによる Aging male's symptoms score（AMS）、国際勃起機能スコア（IIEF）、Erection Hardness Score（EHS）を用いて治療評価を行った。

【結果】維持療法目的で投与された漢方製剤は柴胡加竜骨牡蛎湯 6 例、牛車腎気丸 3 例、桂枝茯苓丸 1 例、八味地黄丸 1 例。ART 前後、中止後で AMS スコアはそれぞれ 46.2 ± 13.7 点、37.3 ± 7.31 点（ $p < 0.05$ ）、36.3 ± 8.92 点（ $p < 0.05$ ）と ART 中止後も ART 前に比較し有意にスコアは改善していた。同様に AMS 心理的因子でも 12.6 ± 4.63 点、9.45 ± 2.30 点（ $p < 0.05$ ）、8.82 ± 2.14 点（ $p < 0.05$ ）と ART 中止後も改善したスコアは維持されていたが、AMS 性機能因子では 14.2 ± 4.58 点、11.4 ± 2.77 点、11.4 ± 3.70 点（ $p < 0.05$ ）と ART 中止後にスコア改善が認められた。AMS 身体的因子は改善傾向を示したが有意差は認めなかった。IIEF、EHS は ART 前後、中止後で有意な変化を認めなかった。

【結論】LOH 症候群に対する ART 後の漢方療法は維持療法として有効な可能性がある。